

株式会社福井新聞社



「福井新聞」および電子新聞「福井新聞D刊」の発行・販売や、文化やスポーツなど各種事業の提供、企業活動のサポートなど多岐にわたります。

日本一の郷土紙を目指して

「新聞力に一層磨きをかけ、地域と共に歩み、考え、汗を流す企業でありたい」

福井新聞社は、県内普及率6割を超える「福井新聞」を発行する会社です。県内各地を飛び回って取材し、政治、経済、スポーツなど、県民や読者が求める新鮮な情報や楽しい話題を発信します。新聞発行を基軸に、電子新聞「福井新聞D刊」の発行、販売や「福井新聞ONLINE」によるニュース配信を全国に先駆けて導入し、先進的な取り組みを行っています。他にも、「心豊かで活力ある福井づくり」をキーワードに、福井県かきぞめ競書

大会や、福井マラソンをはじめ、美術展やコンサートなど、年間3000件に及ぶ多彩なイベント事業を展開しています。また、クライアントに応じた広告の提供および企業活動のサポートなど、あらゆる分野から福井にコミットしていきます。2008年に開設した「福井新聞文化センター」は、語学や書道、絵画、茶道、華道、ダンスなど約200教室を展開。生涯学習と県民交流の拠点として重要な役割を果たしています。

常に地域社会に何が提案できるかを考えながら、福井の発展と、そこに生きる人々の生活に貢献します。

Q&A

管理職の方

Q.会社を作り上げていく上で、どのようなビジョンをお持ちですか？

A. 報道を通じて、県民読者の暮らしや社会を安心・安全で豊かなものにする。新聞力を磨き、福井の地域力を高める「地域創造企業」を実現する。

Q.どのような人を社員として求めますか？

A. 報道機関の一員として、「無知」を恐れず、常にアンテナ高く、好奇心旺盛な人物。また、「批判的思考力」をもって物事について深く考え、行動できる人物。

Q.他社に負けないPRポイントについて教えてください。

A. 福井新聞社は一昨年創立120周年を迎えました。120年間で築いた信頼関係や期待がある分、仕事はしやすいです。また、デジタルで全国発信するなど、報道機関として福井に関する情報は全国紙を含め、同業他社を圧倒しています。

若手社員

Q.どのような瞬間に喜びややりがいを感じますか？

A. 自分の書いた記事の反響が大きかったときです。小学校に取材に行った際、後日お手紙をいただき、自分の仕事が誰かに影響を与えているのだと喜びを感じました。福井新聞社だからという理由で快く取材に応じてくれる方々と接すると、入社してよかったと感じます。

Q.どんな人が記者に向いていると思いますか？

A. 人と話すことが一番の仕事なので、人と話すことが好きな人です。様々な世代の方とコミュニケーションが取れるよう、幅広いジャンルの知識を蓄えておくと、入社後、活躍しやすいと思います。

若手社員からの
メッセージ



編集局報道部
田中 奈々子さん

福井県出身。県外の大学に進学後、福井新聞社に入社。入社2年目。

県内就職か県外就職か迷っている学生は多いと思いますが、少しでも福井に愛着があって、いいところがあると思っていれば、福井で働いて、地域に貢献できることは本当にやりがいになります。「自分が福井を良くしているんだ」という気持ちになることができます。そういう点から就職する場所を考えてみるのもいいかもしれません。

< 1日の流れ >

- 9:30 出社
取材①
取材先に直接向かうことも。
取材後、記事の作成
- 12:00 昼食
- 13:00 取材②
取材先に向かい、記事の作成
- 17:00 帰社
読み合わせ
2人組で原稿チェック
- 18:30 退社

取材したい人



児玉 美友さんの
取材後記

田中さんのお話から、福井新聞社で働く方々の福井に対する強い愛着を感じました。福井のイマを切り取り、報道し、未来へ残す作業には大きな夢を感じます！年齢や境遇の近い田中さんへの取材は、学生記者としてだけでなく、一就活生として、一福井ファンとしても、大変楽しいものでした。